



2026 年 10 月 14 日

各 位

会社名 株式会社 セイワホールディングス
代表者名 代表取締役社長 野見山 勇大
(コード番号：523A 東証グロース・名証ネクスト)
問合せ先 取締役副社長 井川 径成
(TEL 052-265-8467)

2027 年 5 月期第 1 四半期決算 IR 関連 Q&A に関するお知らせ

日頃より、当社にご関心をお寄せいただき、誠にありがとうございます。

2027 年 5 月期第 1 四半期決算の公表にあたり、投資家の皆様からお問い合わせをいただくことが想定される事項について、Q&A 形式で取りまとめましたのでお知らせいたします。

本資料は、当社へのご理解をより深めていただくことを目的として作成しております。回答内容は本資料公表日時点の情報に基づいており、今後の事業環境や各種施策の進捗等により変更となる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

Q. 2027 年 5 月期第 1 四半期の決算を総括してください。

A. 売上収益は 2,100 百万円（前年同期比 11.6%増）、調整後営業利益は 330 百万円（同 10.1%増）、調整後 EBITDA は 411 百万円（同 9.0%増）、調整後四半期利益は 274 百万円（同 9.3%増）となり、当社が重視する調整後の各指標はいずれも前年同期を上回りました。既存事業はオーガニックでも増収増益となり、計画通りに進捗しております。一方、営業利益は 151 百万円（同 62.9%減）、四半期利益は 106 百万円（同 62.0%減）となりました。これは M&A の実行に伴う取得関連費用の計上等によるものです（次問をご参照ください）。

なお、前年同期（2026 年 5 月期第 1 四半期）は四半期決算を開示していないため、前年同期の数値は参考値であり、監査法人のレビューを受けておりません。

Q. 営業利益、四半期利益が前年同期を下回った理由を教えてください。

A. 主な要因は次の 2 点です。いずれも M&A に伴う会計上の影響であり、既存事業の収益力の低下によるものではありません。

①M&A 取得関連費用の増加：当第 1 四半期に実行した M&A に係る取得関連費用を 226 百万円計上しました（前年同期は 14 百万円）。

②負ののれん発生益の減少：前年同期の 168 百万円に対し、当第 1 四半期は 90 百万円となりました。

これらの影響を除いた調整後営業利益は、前年同期比 10.1%増の 330 百万円です。

Q. 通期業績予想を上方修正した理由を教えてください。

A. 既存事業は計画通りに進捗しており、今回の修正は新たにグループに加わった会社の業績を反映したものです。

2026 年 7 月 15 日に公表した当初予想には、その時点で実行済みであった三鷹金属工業株式会社のめっき事業の譲受及び株式会社大庭塗装工業所の 2 件を織り込んでおりましたが、未公表の M&A は織り込んでおりませんでした。その後、大栄パーカー株式会社、保安道路企画株式会社及び株式会社栄進電機の 3 社がグループに加わったため、3 社の業績寄与を反映して修正しております。

修正後の通期業績予想は、売上収益 11,000 百万円（当初予想比 12.2%増）、調整後営業利益 2,000 百万円（同 11.1%増）、調整後 EBITDA 2,350 百万円（同 11.9%増）、調整後当期利益 1,350 百万円（同 10.6%増）です。既存事業の見通しは当初予想から変更しておりません。

Q. 通期業績予想に対する第 1 四半期の進捗について教えてください。

A. 当初予想に対する進捗率は、売上収益 21.4%、調整後営業利益 18.4%、調整後 EBITDA 19.6%、調整後当期利益 22.5%であり、既存事業は計画通りに進捗しております。

今回上方修正の対象とした新規連結子会社は連結開始直後であり、第 1 四半期の業績への寄与は軽微です。これらの会社の業績は、主に第 2 四半期以降に寄与する見込みです。

Q. 2026 年 5 月期の調整後当期利益を訂正した理由を教えてください。

A. 2026 年 7 月 15 日公表の決算説明資料では、2026 年 5 月期の調整後当期利益を 968 百万円としておりましたが、事業譲受に伴う負ののれん発生益に係る税効果額（91 百万円）が反映されておりませんでした。このため、1,059 百万円に訂正しております。売上収益、営業利益、当期利益など会計上の数値、並びに調整後営業利益及び調整後 EBITDA に変更はありません。

Q. 2027 年 5 月期の M&A の状況を教えてください。

A. 期初から 5 件の M&A を実行しました（第 1 四半期に 4 件、9 月に 1 件）。

- ・三鷹金属工業株式会社の金属表面処理（めっき）事業の譲受（連結子会社の株式会社富士鍍金工業所による事業譲受、2026 年 6 月）
- ・株式会社大庭塗装工業所（金属製品塗装・組付、2026 年 6 月）
- ・大栄パーカー株式会社（アルミ合金製品への化成皮膜処理、2026 年 8 月）
- ・保安道路企画株式会社（道路保安用品の製造・販売、2026 年 8 月）
- ・株式会社栄進電機（特殊ワイヤーハーネス加工、2026 年 9 月）

防衛、半導体、防災・安全など、成長分野のニッチ企業がグループに加わっております。

当社は EV/EBITDA 倍率 5 倍前後以内を投資の目安としており、5 件すべて 5 倍以内で取得しております。

Q. M&A 案件は継続的に獲得できていますか。

A. 事業承継市場においては、後継者不在企業の増加を背景に売り手のニーズは引き続き高く、受け皿となる企業は依然として不足しております。当社への引き合い件数も増加傾向にあります。

Q. レバレッジ方針と投資余力について教えてください。

A. Net Debt/EBITDA 倍率 3～4 倍を上限としております。2026 年 8 月末の Net Debt は 3,284 百万円、Net Debt/EBITDA 倍率は 1.4 倍（修正後の通期業績予想の調整後 EBITDA に基づく）であり、投資余力は約 37～61 億円です。

Q. 今後の増資方針について教えてください。

A. 株式の希薄化を回避する方針であり、現時点で増資の予定はございません。Net Debt/EBITDA 倍率は上限の目安を下回っており、手元資金および借入を活用した成長が可能と考えております。

Q. 想定リスクとそのコントロール方法を教えてください。

A. 原材料価格の高騰、人材不足、地政学リスクなど、中小製造業を取り巻く経営環境は引き続き不透明な状況が続いております。

当社では、価格転嫁の推進、生産性向上、自動化投資、改善活動の徹底に加え、M&A による事業ポートフォリオの分散を進めることで、これらのリスクを適切にコントロールしております。

以上